

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

**普通期水稲におけるトビイロウンカの防除対策の徹底について
～ 警報第 1 号を発令中です～**

本県では注意報第 2 号（令和 2 年 7 月 22 日付け）、警報第 1 号（令和 2 年 8 月 20 日付け）を
発表し、水稲のトビイロウンカに対する防除対策の徹底を呼びかけているところです。
しかしながら、既に一部の圃場では、例年より早い 8 月下旬から、主に第二世代虫（飛来
後、二世世代目の虫）によるイネの被害が発生しています。

さらに、9 月 15～16 日の普通期水稲の定期調査において、本虫の第三世代幼虫が大量に
ふ化している圃場を確認しました。ついては、今後の被害の拡大を防ぐため、下記を参
考に、本虫の防除対策について生産者への指導の徹底をお願いします。

記

1. 発生概況

- (1) 9 月 15 日～16 日に実施した普通期水稲の調査（48 圃場）では、トビイロウンカの
発生株率は 50.9%（平年 14.5%、前年 23.1%）であり、平年および前年より高かった
（図 1）。また、一部圃場では、本虫によるイネの坪枯れの発生がみられている。
- (2) トビイロウンカの発生状況は圃場ごとに異なり、一部では第三世代幼虫が大量にふ
化し始めている（写真 1）。

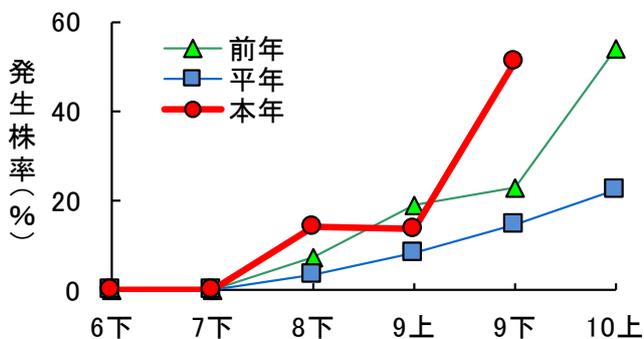


図 1 普通期水稲でのトビイロウンカの発生株率の推移



写真 1 黒色プラスチック板に払い落したトビイロウンカの若齢幼虫（2020 年 9 月 16 日撮影、幼虫の一部を で囲んだ。）
注）若齢幼虫は体長約 1mm である。

3. 防除対策

- (1) 早生品種で収穫適期を迎えた圃場では、速やかに収穫を行う。
- (2) 中晩生品種では、これまでの防除状況（薬剤の種類や防除回数等）に関わらず、トビイロウンカの発生予想図（図2）を参考にして、必ず各圃場の発生状況を確認する。寄生密度が高い場合は、臨機防除を実施する。
- (3) 本虫は株元に生息しているので、薬剤は株元まで十分かかるよう、丁寧に散布する。
- (4) 薬剤散布の際には、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、収穫前使用日数及び使用回数等の農薬使用基準を遵守する。



図2 トビイロウンカ各世代の発生予測（第8版、2020年9月17日作成）

1. 6月10～15日頃（図では6月11日）、6月25～28日頃（図では6月27日）、7月6～11日頃（図では7月7日）の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度（第6版では9月4日以降は平年値、第8版では9月17日以降は平年値）を基に作成した。その結果、第8版は第7版に比べ、各飛来虫のその後の発生時期は、変わらなかった。
2. 本虫に対しては、幼虫ふ化揃い期の防除効果が最も高い。しかし、本年は断続的に飛来がみられたことから、飛来波ごとの幼虫の出現時期は異なる。
3. 必ず圃場における発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952)45 8153 FAX (0952)45 5085